



高崎伝統文化の館

今年4月に伝統文化の新たな拠点として開設した「高崎伝統文化の館」。今回は同館や本市における伝統文化活動について、市内で伝統文化の継承や発展に尽力されている方や伝統文化体験会の参加者にお話を伺いました。

伝統文化の拠点が誕生

市長 この「高崎伝統文化の館」は、元は小島鉄工所という高崎の歴史ある企業の8代目社長である児玉恒二さんが住居として使用していた邸宅です。児玉さんから生前「市のために利用してほしい。庭園を大事にしてほしい」という申し出があって、令和5年10月に遺贈を受けたものです。ここは居間から望む庭園の景色も素晴らしいです。庭のケヤキは樹齢400年を誇る立派なもので、亡くなった児玉さんから「ケヤキは切らないでほしい」というお話があったんです。庭には村上鬼城の句碑もありますよね。この貴重な邸宅をどう活用しようかと考えた時に、高崎には日本の伝統文化の拠がないから、華道や茶道、和楽器、日本舞踊などの練習や発表ができる場にしようと思い、今年4月に開館しました。今の若い人たちの中にも、日本古来の文化に興味があって、体験してみたいと思っている人はいっぱいいると思うんです。けれども、お稽古に参加したいと思っても、なかなか敷居が高いでしょう。そういう人たちに気軽に伝統文化に触れていただく機会を作ったらどうかと思って、今日お集ま

りの先生方をはじめ、市文化協会の方々などにご協力いただいて、伝統文化体験会「日本の伝統文化にふれてみよう」を7月から毎週土曜日に始めました。そうしたら、参加してくれる方がたくさんいて、伝統文化への関心の高さを感じました。小見さんは以前から高崎の文化活動に大変お力添えいただいている方で、この伝統文化の館の館長に就任していただきました。館長の目から見て、伝統文化の館はいかがですか。

小見 敷地の中が何とも言えず静かで清らかな場所で、市街地から近いけれどまるで別世界の、高崎の新しいオアシスという感じがします。建物の大きさも静かに過ごすのにちょうど良く、利用者の方からも大変好評です。

市長 この邸宅を高崎の伝統文化の核となる場所にしようと思って、会長に就任していただいたのが、市文化協会会長の塚越先生です。アドバイスをいただいて伝統文化の館を無事に開館することができましたが、実際に施設や体験会をご覧になってみて、いかがですか。

塚越 これまで文化協会会長として文化活動に励んでまいりましたが、この恵まれた環境も、「高崎伝統文



富岡 賢治市長

遺贈を受けた貴重な邸宅を市のために活用したいと考え、新たな伝統文化の拠点として整備した。

塚越 応鐘さん

高崎伝統文化の館会長で、いけばな松風の3代目家元。高崎市文化協会の会長として、市民を巻き込んだ文化の発展に大きく貢献している。

小見 勝榮さん

高崎伝統文化の館館長。文化に関する造詣が深く、「村上鬼城顕彰会」の運営や「吉野秀雄顕彰短歌大会」の実施などに尽力した。

佐藤 篁童さん

群馬三曲協会会長。市内邦楽団体の出張演奏会「こだま音楽会」を市から委託され、伝統文化の普及・発展に寄与している。

鈴木 成仙さん

大日本茶道学会師範。市内高校の茶道部で指導を行っている。体験会のPRイベントでは茶道の体験会を行った。



佐俣 美結さん

体験会の茶道、和楽器に参加。文化活動に興味があり、大学では茶道部に所属している。

小倉 涼太郎さん

複数の体験会に参加。高崎第九合唱団にも所属し、文化活動に積極的に参加している。

木藤 由佳さん

6月に他市から転入。本市の体験会に参加し、伝統文化の楽しさを発見。



化の館」という名前も素晴らしく、高崎市の文化の拠点にふさわしいと思います。見学した体験会では、参加者の皆さんが本当に熱心で、真剣に取り組んでいました。若い人に伝統文化を体験してもらえるのはとてもうれしいです。

市長 若い人は真面目ですよ。それに本物志向だから、伝統文化の館では本物の伝統文化のすごさを知ってもらおうのいいと考えています。鈴木先生はお茶の先生ですね。今年6月に高崎オーパ前で実施した体験会のPRイベントでは茶道の体験会をしていただいて、大変お世話になりました。

鈴木 イベントには若い方も子ども連れの方もたくさん来て、皆さん楽しんでいました。伝統文化や体験会をPRする良い機会になったと思います。

市長 今日は体験会に実際に参加した方にも来ていただいています。以前から伝統文化に興味があって、いつか習ってみたいと思っていたんですか。

佐俣 私は前から伝統文化に興味があって、大学では茶道部に入っています。広報高崎で伝統文化の館や体験会のことを知って、妹と一緒に申し込みました。茶道と和楽器に参加しました。

木藤 私も茶道と和楽器に参加しました。どちらも本当に感動して、今思い出しても胸が温かくなります。和楽器の回は琴と尺八を習いました。和楽器を演奏するのは初めてで、とても難しかったです。尺八は全然音が出ませんでした。

佐藤 確かに尺八は初心者にとっては音を出すのも難

しいですし、良い音を出しても一瞬なんですよ。けれど、和楽器はたとえ年配でも、時間をかけて練習すれば上達しますから、まずは体験してもらって、続けてほしいと思っています。

市長 楽器の演奏は手ほどきを受けないと、音を出すのも大変ですよ。小倉さんは日本舞踊にも参加されたそうですが、やはり難しいと感じましたか。

小倉 もともと武道をやっていて、日本の伝統に興味があったので、華道・和楽器・日本舞踊に参加しました。どれも初めての体験だったので難しかったですね。でも、短い時間の中で集中して教えていただいて、とても楽しむことができました。

高崎の伝統文化をつなぐ

佐藤 私の所属する群馬三曲協会には高崎市外の方も多くいるのですが「高崎はいいね」ってよく言われるんです。高崎は市民と行政が一緒になって文化活動をやっている、うらやましいと言われます。

市長 私がすごいと思っているのが、高崎市民の文化に対する意識の高さです。例えば、今年5月に開催された高崎市民美術展覧会が今年で89回目になりますから、戦前や戦中もやっていたということですよ。その意識の高さが今も受け継がれていて、市民による写真や絵画などの展覧会が頻りに開かれているんです。市文化協会にはいろんな団体が加入していると思いますけれど、こんなに幅広く団体が活動しているまちって、そう多くないんじゃないですか。

塚越 そうですね、群馬県内にはさまざまな文化団体や文化協会がありますが、中でも高崎が一番まとまっていると思います。



小見 高崎は異質なものを排除しないで取り入れて、一緒になってやるという、独自の精神というか伝統があって、まちづくりの根底をなしているんです。市民が音楽センターを作ったのもそうですし、高崎映画祭の開催にもつながっていきます。そういう市民性があると私は思っています。

市長 私も、高崎市民は開放的だと思います。そもそも、上野三碑こうのぼりさんびがどうして価値があるかと言えば、多文化共生という言葉のなかった飛鳥時代や奈良時代から既に、海外の文化を自然に取り入れていたことが分かる点にあります。高崎はこのように素晴らしい伝統のある地域なんですよ。若い世代の伝統文化に対する関心はいかがでしょうか。

佐俣 私の大学の茶道部には30人くらい部員がいるので、興味を持っている人は多いと思います。でも、伝統文化ってやっぱり心理的なハードルが高いので、これだけ気軽に楽しく参加できる体験会っていうのは、伝統文化に触れるきっかけとしてとても良いと思います。

木藤 私の同世代の人も、すごく興味はあるけれど、敷居が高くて尻込みしている方は多いですね。私は今回の体験会が本当に楽しくて、伝統文化についてもっと知りたい、もっと深めていきたいと思ったので、いろいろな方に同じ経験をさせていただきたいです。

市長 興味を持っている人は多いと思いますが、敷居の高さを感じてしまうのが問題なんですよ。体験会は1回だけでも参加できるようにしたり、参加費を無料にしたりと、参加しやすいように工夫していますので、ぜひ気軽に体験してほしいです。

塚越 伝統文化に興味があっても、お金の問題で躊躇してしまうこともあるのではないかと思います。ですから、気軽に参加できる体験会というのは、そういう人たちの背中を押してくれると思います。

鈴木 私自身は茶道の家に生まれたので敷居の高さを感じなかったんですが、身構えてしまうという気持ちは理解できます。それでも、やってみないと分からないことというのがきっとありますから、若い方には体験会などをきっかけにして、未知の世界に一步踏み込んでいただきたいと思います。

たくさんの人に体験してほしい

市長 伝統を後世につないでいくには、若い人の力が大切ですからね。そのために伝統文化の館にできることがあると思うんですよ。

小見 今、社会が大きく変わりつつある中で、伝統文

化の館には、伝統文化を受け継いで、後世につなげていく人を育てるという役割もあると思っています。その意味で、若い人を対象にした体験会は非常に有意義な試みだと思います。幸い、体験会にはたくさんの方が参加してくれていますので、これからが楽しみです。

佐藤 私は22歳の時に尺八を始めました。尺八のおかげで定年後もまた違う人生を生きることができています。どんなことでもいいと思うのですが、毎週土曜日の体験会などをきっかけに、新しいことにチャレンジしてみれば、きっと人生が違ってくると思います。

市長 最後に、今後の伝統文化の館に期待することはありますか。

小見 例えば、俳句や短歌、落語の教室などをやってみるのも面白いと思います。

小倉 私もこの間初めて落語を見に行っただけですが、話の場面が本当に目に見えてくるような素晴らしい話術にとっても感動しました。そういう企画があったらいいと思います。

市長 落語の部活やサークルがある大学もありますからね。部活といえば、鈴木先生は市内の高校の茶道部に指導に行っているそうですね。高校生にも伝統文化の館を使ってもらえそうですか。

鈴木 部活動は若い人が伝統文化に触れる重要な機会ですので、部活動でもこの伝統文化の館を使わせていただきたいと思います。

市長 いろいろなお意見をいただきました。今、高崎にはマンションがたくさんできていて、子育て世帯の方も多く住んでいます。せっかく伝統文化に気軽に触れられる施設ができたので、そういうご家庭にもぜひ利用していただきたいと思います。本日はありがとうございました。

一同 ありがとうございました。

対談の様子を動画でご覧いただけます▶



地域の自警団編成とパトロール活動に財政支援します (補正予算議会議決後)

昼も夜も自警団が見守る。地域住民が安心して暮らせる毎日のために



近年、強盗や侵入窃盗などの凶悪犯罪が多く発生しています。特に、高齢者が多く空き家が増えている地域ではその傾向が著しく、市民生活の脅威となっています。これを受け、侵入窃盗犯罪の発生地域や高齢率が高い地域において自警団を編成し、パトロール活動を強化した地域に対し、市は財政面で緊急支援を行います (補正予算議会議決後)。

問い合わせは、防犯・青少年課 (☎027-321-1297) へ。

基本的な自警団の活動体制

日中は、徒歩や自転車でのパトロールを中心に、あいさつや声掛けをして地域の安全を確認します。さらに、青色回転灯を備えた自動車「青パト」で、防犯呼び掛けをしながら巡回します。夜間は、消防団が消防車で人通りの少ない道路や公園、駐車場、空き地などを巡回。犯罪発生率が高まる深夜帯には、必要に応じて警備会社に依頼し、地域の安全を見守るなど、地域の実情に合わせて活動の強化を進めてもらいます。

吉井町第35区の区長に聞きました

昨年、南陽台地域では住宅を狙った空き巣や盗難が相次ぎました。これを受け、地域のボランティアパトロールや長寿会で防犯講習会を受講したり、防犯を呼び掛ける旗を地域の各所に設置したりするなど、さまざまな取り組みを進めてきました。活動の成果もあって、以前に比べると空き巣などの被害は減少しているように感じます。



区長の吉田清彦さん

今後も犯罪抑止の力を高めていくためには、防犯ビブスやライト、旗といった備品が欠かせません。財政面での支援はとても心強く、ありがたいですね。